

# 学校の身近な課題を使った「問題解決」の授業

聖母被昇天学院中学校高等学校 情報科社会科教諭 岡本弘之  
<http://www.okamon.jp> [okamoto@assumption.ed.jp](mailto:okamoto@assumption.ed.jp)

## はじめに

・実践的な問題解決の授業を作りたい



・問題解決の手法（KJ法など）も教えたい

身近な学校内の課題を発見・分析し、解決提案を検討する授業を企画、その中で問題解決の手法も体験的に学ぶ

## 授業のメリット

- ・身近な課題なので関心をもってとりくめる
- ・問題発見から解決提案の企画という実践的な流れを体験的に理解することができる
- ・KJ法・ブレインストーミングなど問題解決の手法も体験的に理解することができる

### +プラス

- ・生徒会・委員会の生徒には提案の仕方がわかった
- ・生徒からみた学校の課題がわかった（学校としてのメリット）

## 授業の展開

### 1. 課題を発見する（1時間）

現状分析（「学校のいい所・課題」を個人→グループで検討）

KJ法（出てきた課題をグルーピング→1分程度で発表）

### 2. 解決案を考える（1時間）

課題発見作業で浮かび上がったテーマを4つに整理して提示

ブレインストーミング（4つの課題への解決案を数多く出す）

グループとして検討する課題と提案を一つに絞り込む

### 3. 提案についての調査・分析（3時間）

現状分析・情報収集：  
他校の事例調査・教員関係者への取材・生徒アンケート

資料作成：  
スライド・グラフ化・配布資料

リハーサル：  
役割分担・話し方発表の方法の確認・時間計測

### 4. 発表・相互評価（1時間）

グループ発表：  
ゲスト（今回は公開授業）を招き5分程度のグループ発表

相互評価：  
発表態度・内容・わかりやすさ・説得力の4点で相互評価

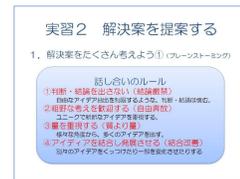
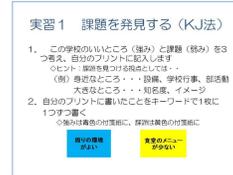
### 5. 振り返り・考察発表・相互評価（1時間）

一つ一つの発表について生徒のコメント・教員のアドバイス紹介

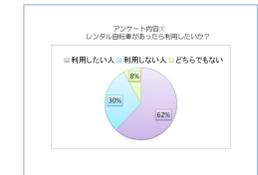
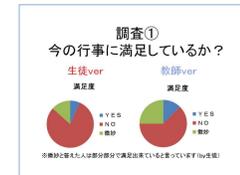
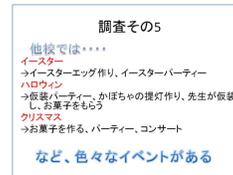
これらアドバイスをふまえ、自己評価・考察を記入

## 授業の実際

◎KJ法・ブレインストーミングについては、ワークシートとスライドの工夫で生徒はスムーズに実習を行うことができた



◎調査分析では、教員が最初に具体的な事例を示したことで、積極的にインターネットや主催などで情報収集を行っていた



◎発表の授業を今回、大阪私学教育情報化研究会（おおさか私学ネット <http://www.osaka-sigaku.net/>）の「授業公開キャラバン」として他校教員にも広く公開を行った。



◎生徒が選んだ学校の課題と、それを解決するための提案は以下の表のとおりである。

班	課題	改善提案
1	行事の活性化	季節感を取り入れた宗教家的な行事（ハロウィン・イースター）の提案
2	行事の活性化	文化祭の時間延長・入場チケット廃止で入場者数を増やす提案
3	行事の活性化	国際交流行事を充実させ、海外修学旅行を行う提案
4	駅から遠い	学校が駅からのレンタル自転車を整備し、通学可能とする提案
5	校則が厳しい	靴下・髪の毛の制限の規則をなくすため提案
6	行事の活性化	文化祭の日に後夜祭を行い、文化祭の充実を行う提案
7	行事の活性化	ハロウィンの日にハロウィンパーティーを行い楽しい行事を増やす提案
8	行事の活性化	高3をおくる会のクラスごとの出しもの時間を延ばし充実させる提案

## 今回の授業でつきたい力

情報科の授業内にとどまらず、生徒たちが社会に出たときに必要な次のような力をつけることを今回の授業の目標とした。

- ①自分たちで課題を発見・解決を提案する**実践的な問題解決の力**
- ②KJ法・ブレインストーミングなど社会でよく使われる**問題解決のための手法を習得**し、今後実践する力
- ③意見の異なる仲間とも協力して、一つの提案を作り上げる**協働する力**
- ④自分たちの考えを、説得力を持ってわかりやすく伝える**プレゼンテーションする力**